

CASBEE神戸ver.2 (仮称)グッドマン赤松台2新築工事計画		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.2	CASBEE神戸ver.2 / CASBEE-BD_1			
スコアシート 実施設計段階		■評価ソフト:	CASBEE神戸ver.2 / CASBEE-BD_1			
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.4
Q1 室内環境						2.9
1 音環境		3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音	遮音性が必要な居室は「天井:岩綿吸音板、壁:遮音壁」を採用	4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.4	0.35	-	-	2.4
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		2.4	0.25	-	-	2.4
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		2.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気環境		4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	ほぼ全面に☆☆☆☆を採用。	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量	事務室2.0回/h	5.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.8
1 機能性		3.8	0.40	-	-	3.8
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.8m以上	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュルーム+自動販売機を設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	インテリアパースによるシミュレーションを実施。	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内装:耐汚性のある材料を使用。外装:サッシに水切設置。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃用具スペースを十分確保し、維持管理が容易な計画とした。	5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐久年数20年以上(内部仕上表・耐用年数一覧表)	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:VLP 汚水配水管:DVLP を使用。	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				4.7	0.30	-	-	4.7
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高は6.0m以上		5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 約3%		5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		5,000N/㎡		5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性				4.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	外部空調配管、天井スペースを確保し、構造・仕上材を痛めることなく修繕・更新可能。		4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	PSIに将来配管スペースを設置		4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造・仕上材を痛めることなく修繕・更新可能。		5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく修繕・更新可能。		5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	外壁に搬入ルートを設置。		5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースを設置		4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		既存緑地の保存による景観的な地域性を継承すし、かつ、建物の圧迫感の軽減に寄与している。		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		緑被率を30%以上確保		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.1	0.01	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用				3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.38 住宅(専有部) -		4.0	0.62	-	-	4.0
		集合住宅以外の評価(3a.3b)		4.0	1.00	-	-	
		集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.25	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ及び節水型便器を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		プラスチックデッキ材、宅内樹、ビニル床材		5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装は軽鉄+仕上げ。再利用可能ユニットとしてOAフロアを採用		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		床接着剤、シーリング材、塗膜防水に有害物質を含まない材料を使用。		4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1		消火剤		-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3		冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼器具の使用なし		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.6	0.25	-	-	
1		雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2		汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3		交通負荷抑制	駐車場・トラック待機スペースを十分に確保し、交通負荷の低減に努めた	5.0	0.33	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1		騒音		3.0	1.00	-	-	
2		振動		-	-	-	-	
3		悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1		風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2		砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3		日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たした	5.0	0.70	-	-	
2		昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	